

作成: 芝崎

78. 新聞の記事篇：歌壇に気になる句が掲載された・・・

(1) 朝日新聞の歌壇の2人の選者さんが選んだ句があり、目が止まる。その句を下記に記載。

「雪降れば 歓声あげて 踊り出す ヘルパーさんは フィリピンの人」

私が19歳ごろ東京で、2月頃か上記と同様な風景に遭遇していた・・・

急に外で男がキャアキャア独りで騒いでいるのを見てびっくり。彼は沖縄からの学生で生まれて初めて雪と遭遇し、天から白い物が降ってくる事が不思議なようだった。

共に南国の人々は陽気な明朗闊達な気質なんだろう・・・その結果、踊り出すようだ。

まさに「雪降れば 歓声あげて 踊り出す 学生さんは 沖縄の人」

半世紀前の事が甦る、情景は変わらないし、今後も同様な風景は永久に続くのであろう。

(2) 北国出身の者にとって雪は両面性があり、要は吹雪になるか否かがポイント🌈しれない。

① 深々と穏やかに降る雪は白いじゅうたんを歩いているようで、振り返ると足音がくっきり残ってとても清々しい気持ちになる。特に初詣の日にはこのようであれば、今年の良い年を期待。

② 反面、風と雪が混じった吹雪になれば、白い恐怖か白い悪魔🌈しれない。家でじっと我慢している。しのいだ後には外の景色を見ると、雪/白色と空/青色のコントラストがとてもきれい。でも、その後は雪との戦いが：雪下ろし、雪かき等処理、アイスバーン戦い等との奮闘が続く・・・

(3) 南国の方には「白き落ちてくるもの」の神々しさを通して、これから人生を新たな気持ちで立ち向かってもらいたい。彼らの踊ることで観感興起の表現と思った。

観：観た初めての雪に感動そして興奮かも

感：感じた事の唯一の表現が「踊り」なんだろう

興：興奮を止めることは誰もできない

起：起こった現実の表現！！まさに南国の明朗闊達さにつながってゆく

➡ 日本では四季折々の変化、まさに雪月風花(冬秋夏春)の一年を繰り返す。季節ごとの良さを味わい、楽しめるが反面厳しさもある。でも、初めて雪に触れる南の人々は土気が上がり、歓喜に繋がる🌈。



以上